

I. 令和6年度事業報告

1. 学術集会、講演会等の開催（定款第4条第1号）

(1) 年会の開催

開催なし

(2) 地方部会

- | | |
|-----------------|--|
| 第144回日本薬理学会近畿部会 | 部会長：大野 行弘（大阪医科薬科大学・薬）
2024年3月20日 大阪医科薬科大学薬学部阿武山キャンパス（ハイブリッド開催）
参加者462名，一般演題（口演57題，内YIA10題） |
| 第150回日本薬理学会関東部会 | 部会長：上園 保仁（東京慈恵会医科大学・医）
2024年6月29日 オンライン
参加者200名，特別講演1，教育講演3，一般演題（口演42題，ポスター14題） |
| 第145回日本薬理学会近畿部会 | 部会長：石原 熊寿（広島国際大学・薬）
2024年7月6日 広島国際大学呉キャンパス
参加者135名，一般演題（口演48題，内YIA20題） |
| 第75回日本薬理学会北部会 | 部会長：平 英一（岩手医科大学・医）
2024年9月21日 アイーナ いわて県民情報交流センター
参加者98名，一般演題（口演33題，ポスター4題），Late breaking 演題（ポスター3題），西宮機能系基礎医学研究助成基金受賞講演3 |
| 第151回日本薬理学会関東部会 | 部会長：成田 年（星薬科大学・薬）
2024年10月12日 星薬科大学
参加者264名，シンポジウム4，一般演題（口演53題，ポスター26題） |
| 第77回日本薬理学会西南部会 | 部会長：岩本 隆宏（福岡大学・医）
2024年11月16日 福岡市美術館
参加者129名，シンポジウム2，YIA（口演18題，ポスター15題），一般演題（口演20題，ポスター5題） |
| 第146回日本薬理学会近畿部会 | 部会長：田中 智之（京都薬科大学・薬）
2024年11月30日 京都薬科大学
参加者131名，一般演題（口演52題，内YIA21題） |

(3) 市民公開講座の開催

- ・2024年9月21日 アイーナ いわて県民情報交流センター（第75回北部会開催時）
『現代における大人の心のケアに向けて～高齢者の認知症と若者の引きこもりにスポットを当てて～』
演者：阪井 一雄（神戸学院大学・総合リハ），山科 満（中央大学・文）
- ・2024年11月17日 福岡市美術館ミュージアムホール（第77回西南部会開催時）
『元気で長生きするための市民公開講座』
演者：上原 吉就（福岡大学・スポーツ），大槻 純男（熊本大学・院生），喜多紗斗美（徳島文理大学・薬）

(4) 次世代薬理学セミナーの開催

- ・次世代薬理学セミナー2024 in 岩手（第75回北部会開催時，ハイブリッド） 2024年9月21日
『細胞内局所シグナル制御機構の解明と創薬』
- ・次世代薬理学セミナー2024 in 東京（第151回関東部会開催時，星薬科大学） 2024年10月12日
『次世代研究者による心臓および血管に着目した薬理学的研究』

(5) 看護薬理学カンファレンスの開催

- ・看護薬理学カンファレンス2024 in 東京，2024年6月30日 大会長：坂本 謙司（帝京大学・薬）
- ・看護薬理学カンファレンス2024 in 石川，2024年11月2日 大会長：新田 淳美（富山大学・薬）

(6) 他学会等との共催学術集会の開催

- ・日本医学会連合 領域横断的連携活動事業（TEAM 事業）加齢性難聴の啓発に基づく健康寿命延伸事業
2024 年 9 月 2 日（日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会事務局およびオンライン配信）
『多領域の専門家が挑む加齢性難聴とその社会的課題 - Healthy Aging と認知症対策における聴こえの役割 -』

(7) 内外の関連学術団体との連携及び協力

- ・安西尚彦理事がアジア太平洋薬理学者連盟（APFP）会長に選出された（任期：2024 年～2028 年）。
- ・第 3 回アソシエイツ交流会を 2024 年 8 月 28 日にオンラインにて開催した。
- ・第 25 回韓日薬理学合同セミナー（2024 年 11 月 7 日～9 日、済州島）にて、斎藤顕宜教授（東京理科大学）、西谷友重教授（和歌山県立医科大学）、増田隆博教授（九州大学）が講演し、一般発表者（口頭・ポスター）10 名の旅費の補助を行った。
- ・APFP2024 Melbourne（2024 年 12 月 1 日～4 日）にて、萩原正敏特任教授（京都大学）が講演し、旅費の補助を行った。

2. 学会誌等刊行物の刊行（定款第 4 条第 2 号）

(1) Journal of Pharmacological Sciences の刊行

発行巻号 154 巻 1～4 号, 155 巻 1～4 号, 156 巻 1～4 号

	掲載頁数	（篇数）
① Review	79 頁	(10)
② Full Paper	625 頁	(65)
③ Short Communication	44 頁	(10)
合計	748 頁	(85)

(2) 日本薬理学雑誌（くすりとかからだ／ファーマコロジカ）の刊行

発行巻号（部数）159 巻 1 号（3,450 部）、159 巻 2 号（3,350 部）、159 巻 3 号（50 部）、
159 巻 4 号（50 部）、159 巻 5 号（50 部）、159 巻 6 号（50 部）

	掲載頁数	（篇数）
① 特集序文	14 頁	(14)
② 特集および総説	249 頁	(47)
③ 実験技術	6 頁	(1)
④ 創薬シリーズ	23 頁	(4)
⑤ 新薬紹介総説	96 頁	(9)
⑥ キーワード解説	0 頁	(0)
⑦ 最近の話題	9 頁	(9)
⑧ サイエンス/リレーエッセイ	4 頁	(4)
⑨ 学会便り/研究室訪問	7 頁	(7)
⑩ アゴラ	8 頁	(4)
⑪ 広告	10 頁	
⑫ 綴込み、目次等上記以外の頁	72 頁	
合計	498 頁	(99)

3. 研究の奨励及び研究業績の表彰（定款第 4 条第 3 号）

(1) 第 18 回日本薬理学会江橋節郎賞授賞

該当者なし

(2) 第 40 回日本薬理学会学術奨励賞授賞（所属等の標記は申請時）

高露 雄太（九州大学大学院薬学研究院薬理学分野・准教授）

『アストロサイト多様性意義の解明に関する研究』

中村 庸輝（広島大学大学院医系科学研究科（薬）・助教）

『難治性疼痛病態の理解に基づく鎮痛薬開発を目指した薬理学研究』

永井 裕崇（神戸大学大学院医学系研究科・助教）
『環境要因が組織恒常性の破綻を招く機序の解明』

(3) 第30回 Journal of Pharmacological Sciences 優秀論文賞

Neuronal activation of nucleus accumbens by local methamphetamine administration induces cognitive impairment through microglial inflammation in mice.

Yuka Kusui, Naotaka Izuo, Reika Tokuhara, Takashi Asano, Atsumi Nitta

Journal of Pharmacological Sciences, Volume 154, Issue 3, 2024, Pages 127-138.

Chronic stress alters lipid mediator profiles associated with immune-related gene expressions and cell compositions in mouse bone marrow and spleen.

Io Horikawa, Hirotaka Nagai, Masayuki Taniguchi, Guowei Chen, Masakazu Shinohara, Tomohide Suzuki, Shinichi Ishii, Yoshio Katayama, Shiho Kitaoka, Tomoyuki Furuyashiki.

Journal of Pharmacological Sciences, Volume 154, Issue 4, 2024, Pages 279-293.

(4) 2024年度 JPS 優秀査読者賞

- Atsufumi Kawabata (Kindai University)
- Kazuhiro Nishiyama (Osaka Metropolitan University)
- Naoki Inagaki (Gifu University of Medical Science)
- Tomoe Fujita (Dokkyo Medical University)

(5) 第1回（2024年度）日本薬理学会100周年記念博士研究奨励賞

抱 将史（和歌山県立医科大学・薬）

『血管性認知障害におけるグリア細胞の病態生理学的役割の解明』

河合 洋幸（大阪公立大学・院医）

『快および不快情動の制御におけるセロトニンの役割』

窪田 悠力（藤田医科大学・精神神経病態解明センター）

『双方向トランスレーショナルリサーチを基盤とした精神神経疾患の行動薬理学的解析と機序解明』

田中里奈子（名古屋大学医学部附属病院・薬）

『Rho-kinaseの阻害は、統合失調症に関連する *Arhgap10* 遺伝子変異を有するマウス内側前頭前皮質のスパイン密度の減少と methamphetamine 誘発性認知機能障害を改善する』

宮本 佑（大阪大学・免疫学フロンティア研究センター・院医）

『肝内の門脈近傍マクロファージは腸内細菌の侵入による炎症から臓器を守る』

吉岡 寿倫（東京理科大学・薬）

『ストレス関連疾患を標的としたδオピオイド受容体作動薬の創薬研究』

吉本 愛梨（東京大学・院薬）

『心拍数を意図的にコントロールする神経回路』

4. 薬理学に関する研究及び調査（定款第4条第4号）

関連団体のアンケート調査に協力を行った。

5. 内外の関連学術団体との連携及び協力（定款第4条第5号）

(1) 学術集会の共催および連携 上記1.の(6)参照

(2) 学術集会の協賛・後援 (令和6年総会資料掲載以降令和7年総会の前日まで)

後 援

1) 第74回脳の医学・生物学会研究会&第3回日本神経化学会若手 KYOEN 合同大会	令和6年5月18日
2) 国際神経精神薬理学会 2024 年世界大会	5月23日～26日
3) 第18回トランスポーター研究会年会	6月1日, 2日
4) JSOT2024 サテライト企画 Digital Toxicology Conference 大会	7月5日
5) 「子ども薬を創る会」第10回セミナー	7月22日
6) 次世代を担う若手のための創薬・医療薬理シンポジウム 2024	8月31日
7) 第29回日本病態プロテアーゼ学会学術集会	9月6日, 7日
8) Asia Pacific Oncology Pharmacy Congress 2024	10月12日, 13日
9) 薬理毒性試験の DX 推進研究会	10月30日
10) 創薬薬理フォーラム第32回シンポジウム	10月31日
11) 第40回日本ストレス学会学術総会	11月2日, 3日
12) 第10回ゼブラフィッシュ・メダカ創薬研究会	11月18日, 19日
13) 日本動物実験代替法学会 37 回大会	11月29日～12月1日
14) 第34回日本循環薬理学会	12月20日
15) 第54回日本心脈管作動物質学会	令和7年1月31日, 2月1日
16) 第75回脳の医学・生物学会研究会	2月1日
17) 第34回神経行動薬理若手研究者の集い	3月16日

協 賛

1) 第31回 HAB 研究機構学術年会	令和6年6月13日, 14日
2) 第25回応用薬理シンポジウム	9月15日, 16日